

協働事業提案制度の審査について
答申書

令和4年11月14日

相模原市市民協働推進審議会

目 次

1	令和4年度新規協働事業提案の審査結果について・・・・・・・・	1
2	令和4年度継続協働事業の審査結果について・・・・・・・・	4
3	新規協働事業提案及び継続協働事業の実施に関する意見・・・	6

1 令和4年度新規協働事業提案の審査結果について

(1) 審査結果

	事業の名称	事業化について	点数
1	里山保全・再生と活用のモデル検討事業	A 協働事業として実施することがふさわしい提案であるとする	89 / 120
2	「さがみん条例」の1つのシンボルとなる相模原市オリジナル教育プログラム＝「シビックプライド醸成ゲーム」開発事業	A 協働事業として実施することがふさわしい提案であるとする	84 / 120
3	野生鳥獣被害の実態や対策、生物の多様性を周知する事業	A 協働事業として実施することがふさわしい提案であるとする	87 / 120
4	「城山自然の家」を観光ゲートとした城山エリアでの e-bike ツアーの造成	A 協働事業として実施することがふさわしい提案であるとする	84 / 120

4 事業とも市民提案型協働事業

○採点は、「事業の必要性・妥当性」「事業の公益性」「協働の必要性」「実現可能性」「事業の効果」「発展の見込と将来展望」の6項目を各項目5点満点で4人（委員5名中、出席4名）が採点。

（5点満点×6項目×4人＝120点満点）

○審査は、点数を参考に協議により行い、以下のいずれかの審査結果を示した。

- A 協働事業として実施することがふさわしい提案であるとする
- B 事業内容を修正（精査）することにより協働事業としての実施が可能なものとする
- C 協働事業として見送ることが適当な提案であるとする

(2) 事業化にあたっての意見

No	事業の名称	提案団体及び担当課
1	里山保全・再生と活用のモデル検討事業	・特定非営利活動法人 自遊クラブ ・森林政策課
<p>【審査結果】 協働事業として実施することがふさわしい提案であるとする。</p> <p>【意見】 若い世代も多い他団体とのコラボレーション事業の実施により、提案団体の経験値やノウハウ等を生かしつつも、それぞれの団体の強みを生かした、より魅力的な取組が期待される。 事業実施にあたっては、ひとつの団体に負担が偏らないよう工夫してもらいたい。 事業の拠点となる森林は、公共交通機関でのアクセスが難しい課題があり、アクセスの整備がなされないと集客が見込めないと考えられるため、方策を検討してもらいたい。</p>		

No	事業の名称	提案団体及び担当課
2	「さがみん条例」の1つのシンボルとなる相模原市オリジナル教育プログラム＝「シビックプライド醸成ゲーム」開発事業	・相模原市印刷広告協同組合 ・観光・シティプロモーション課
<p>【審査結果】 協働事業として実施することがふさわしい提案であるとする。</p> <p>【意見】 市民のシビックプライド醸成を促すコンテンツとして有効であるとするが、成果目標は本施策と直結するものにするよう、再検討してもらいたい。 担当課には、本事業を他の施策と一体的に取り組むことで、シビックプライドの醸成に取り組んでももらいたい。 クイズ製作にあたっては、題材を探しに地域をめぐるスタンプラリーやフィールドワーク等も有効であるとする。 こどもの作ったクイズと大人の作ったクイズでは、双方の面白さ、魅力の質が異なるため、サイト内において、その面白さの違いが伝わるような工夫をもらいたい。</p>		

No	事業の名称	提案団体及び担当課
3	野生鳥獣被害の実態や対策、生物の多様性を周知する事業	<ul style="list-style-type: none"> ・野生動物との共生の会 ・緑区役所区政策課
<p>【審査結果】 協働事業として実施することがふさわしい提案であると考ええる。</p> <p>【意見】 持続可能な社会という視点からも、意義のある事業であると考ええる。 鳥獣被害の状況や、野生動物との共生に関して理解を促すことは、ハードルは高いが、マップやパネル等で可視化する等、市民がわかりやすい形で実施してもらいたい。 より多くの市民に理解を促すためにも、賛同者を増やし、組織体制の強化に取り組んでもらいたい。</p>		

No	事業の名称	提案団体及び担当課
4	「城山自然の家」を観光ゲートとした城山エリアでのe-bike ツアーの造成	<ul style="list-style-type: none"> ・城山観光協会 ・観光・シティプロモーション課 ・城山まちづくりセンター
<p>【審査結果】 協働事業として実施することがふさわしい提案であると考ええる。</p> <p>【意見】 地域の資源を生かした有意義な取組だと考えることから、事業を実施する地域を活性化し、魅力をどのように打ち出していくかが重要である。 将来的に継続していくためにも、魅力あるコンテンツや価格設定をよく検討し、採算の取れる取組としてもらいたい。 事業の拠点となる地域は、公共交通機関でのアクセスが難しい課題があり、アクセスの整備がなされないと集客が見込めないと考えられるため、方策を検討してもらいたい。 e-bike ツアーに関しては、専門性も求められるため、団体内で勉強会の開催等も有効だと考える。</p>		

2 令和4年度継続協働事業の審査結果について

(1) 次年度継続に対する意見

	事業の名称	事業開始年度	次年度継続希望	継続についての意見	点数
1	「住んでみたいまち相模原」をめざす移住・定住促進事業	令和3年度	有	A 次年度継続することが妥当な協働事業と考えられる	82/100
2	食品ロスと食の格差解消で、夢と希望が持てるまちづくり	令和3年度	有	A 次年度継続することが妥当な協働事業と考えられる	84/100

2 事業とも市民提案型協働事業

○採点は、「事業の有効性・効果」「協働の必要性」「役割分担の妥当性」「経費の妥当性」「継続の妥当性」の5項目を各項目5点満点で4人（委員5名中、出席4名）が採点。

（5点満点×5項目×4人＝100点満点）

○審査は、点数を参考に協議により行い、以下のいずれかの審査結果を示した。

- A 次年度継続することが妥当な協働事業と考えられる
- B 次年度継続することを見送ることが妥当な協働事業と考えられる

(2)次年度継続及び進捗状況等に関する意見

No	事業の名称	実施団体及び事業担当課
1	「住んでみたいまち相模原」をめざす移住・定住促進事業	<ul style="list-style-type: none"> ・一般社団法人 藤野観光協会 ・緑区役所地域振興課 ・観光・シティプロモーション課 ・建築・住まい政策課
<p>【審査結果】 次年度継続することが妥当な協働事業と考えられる。</p> <p>【意見】 移住のニーズが高まる中、更なる物件の確保が重要だと考えるが、例えば独居高齢者の相続相談も併せて行うことで、物件の掘り起こしにつながる可能性もあるため、物件をつくりだし、事業が発展するよう検討してもらいたい。 自主財源の確保策を模索する等、中長期的な視点で事業に取り組んでももらいたい。</p>		

No	事業の名称	実施団体及び事業担当課
2	食品ロスと食の格差解消で、夢と希望が持てるまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・フードコミュニティ ・こども・若者支援課 ・子育て給付課 ・資源循環推進課
<p>【審査結果】 次年度継続することが妥当な協働事業と考えられる。</p> <p>【意見】 スタッフの加入、賛助会員の増加に見られるように、組織体制の強化が図られてきた点は評価する。 食材等の収集が安定して行われることが前提の事業であり、周知を図り、関心のある人を増やすことで、多くの賛同者やスポンサー企業を得られるよう、より一層努力してもらいたい。</p>		

3 新規協働事業提案及び継続協働事業の実施に関する意見

公開プレゼンテーション及び中間ヒアリング等への職員の出席も含め、担当課にはより積極的な参画を期待する。また、事業実施中に団体と担当課の課題認識や方向性に齟齬が生じないよう、緊密な連携をとってもらいたい。

事業の持続的な実施に当たり、担い手の育成や広報活動は非常に重要であり、対象者を明確にした上で、的確なアプローチを行い、より効果的な取組となるよう努力してもらいたい。

コロナ禍ではあるが、ここ数年、緑区を拠点に活動している団体からの提案が多い。それは緑区、特に中山間地域では人口減少や少子高齢化の影響を受けてのことだと考えられる。南区や中央区からの提案も促して行く必要があるのではなかろうか。